



CLOMAが想像する未来社会
CLOMA CITY

CLOMA VISION

企業連携が生み出す新たなイノベーション

Alliance creates new innovation

2.0



CLOMA公式サイト



CLOMA会員リスト



VISION用語解説

発行 クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス CLOMA事務局
〒101-0011 東京都千代田区内幸町1丁目3番1号 幸ビルディング3階
(一般社団法人産業環境管理協会内)



CLOMA 設立の背景とこれまでの活動

2019年1月、一般消費者向け商品のサプライチェーンを担う企業が中心となり、クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス(CLOMA)が設立されました。

プラスチックは、軽く成形加工性に優れるため、私たちの身の回りの様々な製品に使用され生活を便利で豊かなものにしています。その一方で、海洋プラスチックごみ問題の解決に向けては、既に滞留しているプラスチックを回収するとともに、新たに流出させない取組みが必要になります。

CLOMAは日本の産業界がこれまでに培ってきた技術やノウハウを持ち寄り、官民連携で3Rと代替素材のイノベーションを加速し、プラスチックの循環利用を徹底することで、生活者や社会とともに海洋に流出するプラスチックごみのゼロ化を目指す日本初のソリューション＝ジャパンモデルを世界へ発信しています。

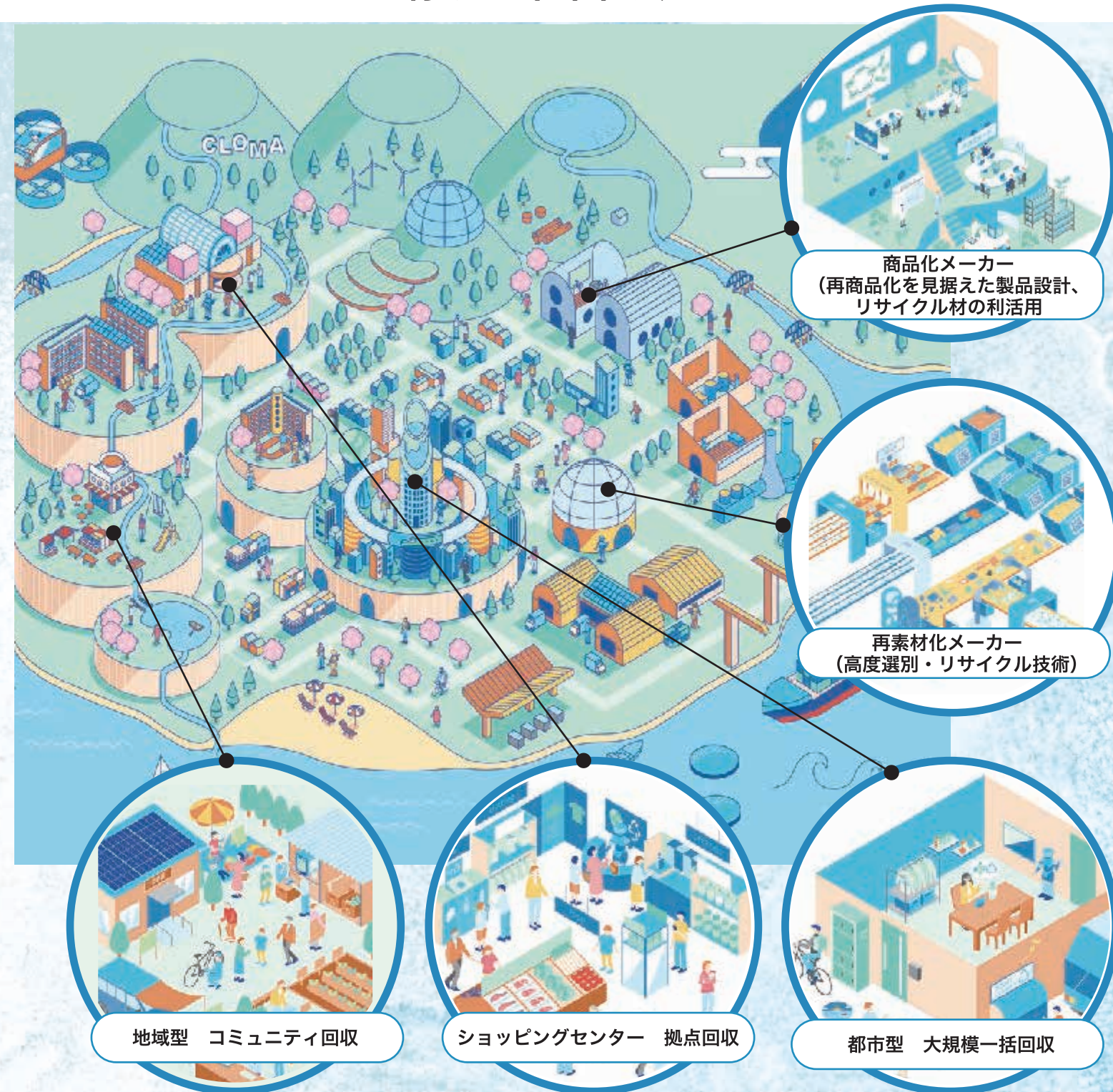
外部環境変化とステージアップへ向けて

近年、全世界的にプラスチックごみ削減のために様々な法規制の導入やプラスチック汚染防止条約のための国際条約締結に向けた交渉が進むなどプラスチックのライフサイクル全体を適切なものにしていくという問題意識は益々高まっています。また、プラスチックのライフサイクルの各段階で、温室効果ガスの排出や地域生態系への影響がある点を踏まえ、プラスチック製品のバリューチェーンに関わる企業及び様々なステークホルダー(広範囲な利害関係者)が連携して、気候変動や生物多様性に対応していくことがより重要になってきています。

私たちは、既存の延長線上にない社会システムを追求することで新たな市場づくりのためのステージアップへ向けて、日本および国際社会へ貢献することを目指し、CLOMAが想い描く未来社会の具現化に向けたCLOMA目標を明確化し、ここにCLOMAビジョンを改訂いたします。

2024年11月

「きれいな海と、豊かなくらしを、皆とともに」 CLOMAが想像する未来社会 CLOMA CITY



ゴール

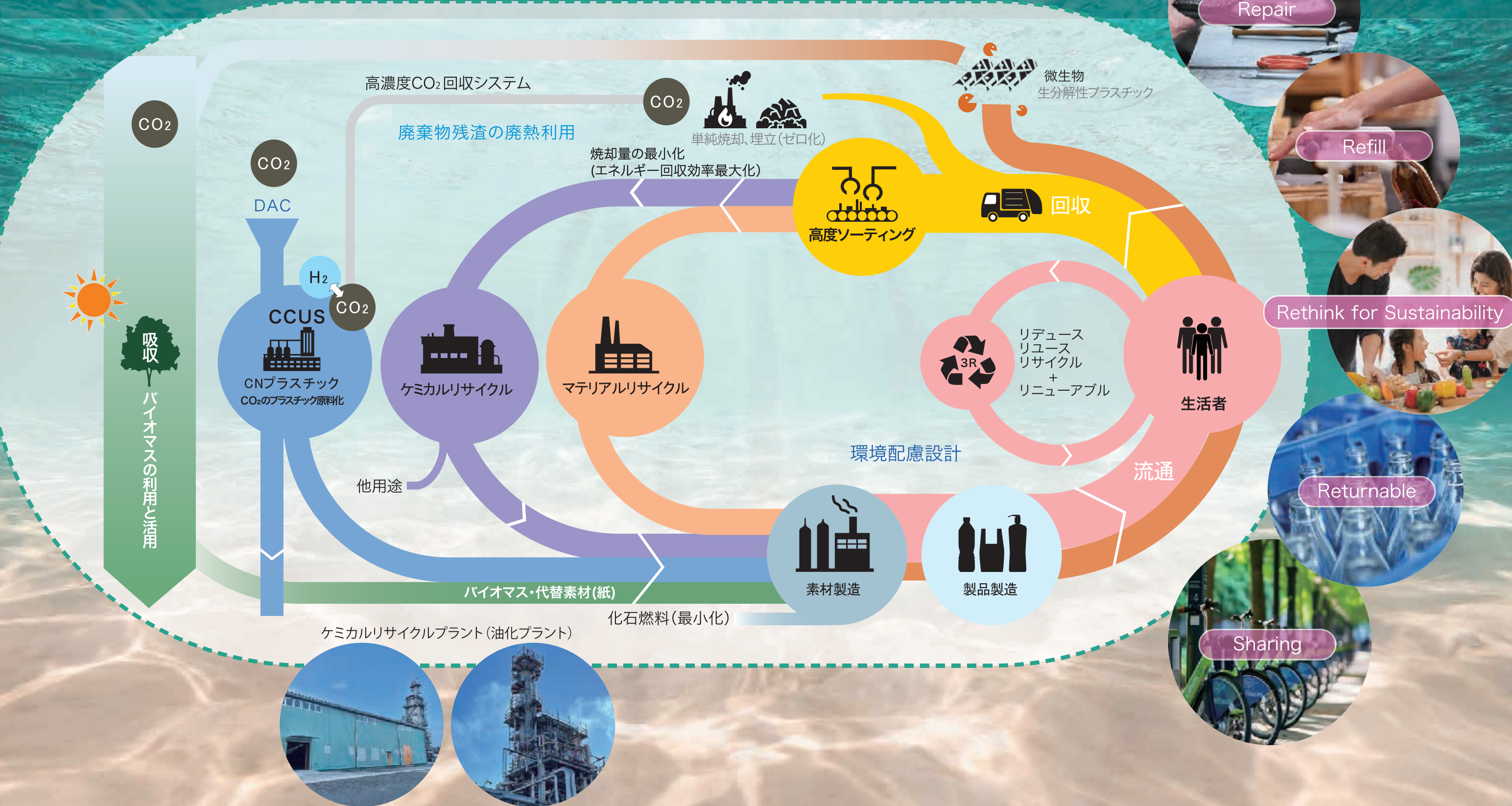
2050年 容器包装を含むプラスチック製品を100%循環させる

マイルストーン

2030年「Circular 30 by 30」
容器包装プラスチックへの再生材使用率を30%とする

カーボンニュートラル・ネイチャーポジティブの達成に貢献

日本版プラスチック資源循環を通じてサーキュラーエコノミーを推進し、化石資源の利用を減らし、バイオマス等の非化石資源への原料転換や燃料転換を進めることでカーボンニュートラルに寄与し、生物多様性の損失を防ぎます。また生活者のライフスタイルが資源をよりサステナブルに利用する方向に転換するようサポートすることを通じて、環境へのプラスチックごみの流出を防ぐことでクリーンオーシャンを実現し、ネイチャーポジティブにも貢献できます。



CLOMA VISION 2.0



CLOMA のあるべき姿

存在意義	海洋プラスチックごみ問題のないサステナブルな社会作りの一翼を担う
行動指針	製品のバリューチェーンに関わる企業および国、自治体、アカデミア、生活者等のステークホルダーの連携を促進し、「クリーン・オーシャン」を実現する
役割	カーボンニュートラル・ネイチャーポジティブの達成に向けて、サーキュラーエコノミーの実現にビジネスを通じて貢献する
行動原則	1. 素材、製品のライフサイクル全体を通じて、SDG s の達成とクリーン・オーシャンの実現に貢献する 2. 「使用済みプラスチック製品の適切な回収・処理・再資源化の徹底」と「3R(資源循環)の深化とバイオマス等の非化石資源の利活用により環境負荷の低い素材・製品への代替」を両輪として取り組む 3. 技術、ノウハウ、経験を会員間で最大限共有し、ビジネスモデルを含めたより大きなイノベーションを創出する 4. 技術開発と社会システムの組み合わせを最適化し、ステークホルダーの理解および政策提言を通じて社会実装を加速させる 5. 素材を循環利用し、環境負荷を低減するジャパン・モデルを世界に発信するとともに、各国の国情に適應する形で展開する

CLOMA 活動の進め方とフィールド



ネットワークの拡大

04 国際貢献

03 プラスチック資源循環を推進するための政策提言
(政策策定や制度整備を担う政府に対し、プラスチック関連の条約、法律、各種ガイドラインに関して提言)

02 生活者コミュニケーションの推進
(ライフスタイルの転換に向けた働きかけ、情報を通じた啓発)

01 製品のバリューチェーンに関わる企業および様々なステークホルダーとの連携によるPJの推進と実証
(関係省庁、地方自治体、アカデミア、関連業界団体、海外プラスチック循環団体の日本窓口)

活動のフィールド：
海洋プラスチックごみ問題も含むプラスチック資源循環のライフサイクル全体
(製品設計、製造、販売、使用、回収、再利用の他に、海洋プラ汚染、マイクロプラ問題、環境流出も含む)